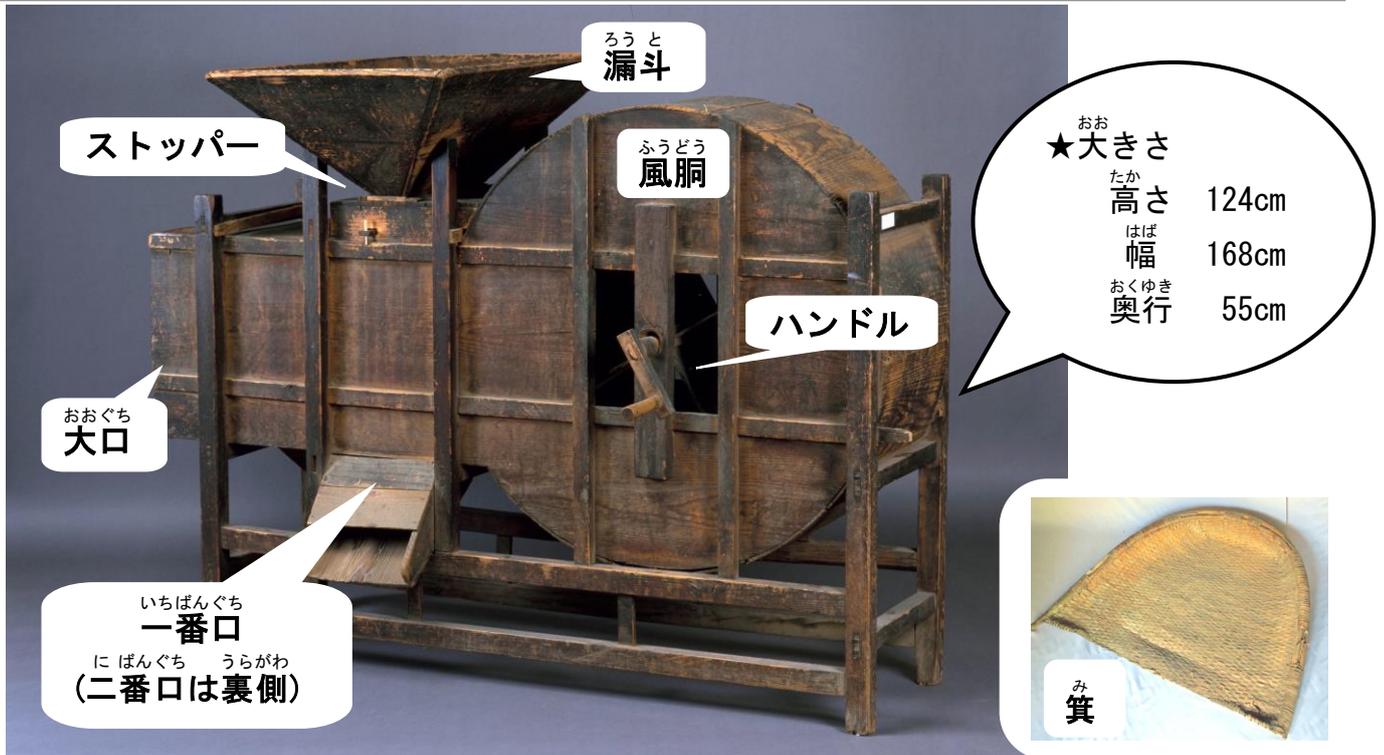


2018年4月

民俗 — No. 16

けんぱくものしりシート

とう 唐 箕



◆ とうみ 唐箕

収穫した米や豆などを実と殻やゴミに分ける道具です。古い時代から使われている箕の機能を効率よく大型化したものが唐箕です。唐箕は、江戸時代(1603~1868年)の中ごろに中国から日本へ伝わってきましたが、農家へ普及するのは明治時代や大正時代になってからのことでした。

◆ 昔の唐箕と今の唐箕

岩手県では、江戸時代の年号が記された唐箕が岩手県北上市と一関市室根町で確認されています。木製の唐箕は昭和の中ごろまで盛んに使われていましたが、近年では、基本的に同じ構造をもつ金属製のものが農機具メーカーから数万円で販売されています。時代や材質は変わっても長い間使われているととても便利で大切な道具なのです。

とうみ つか かた し く
◆唐箕の「使い方」と「仕組み」

①

★ふたりひと組で作業をする

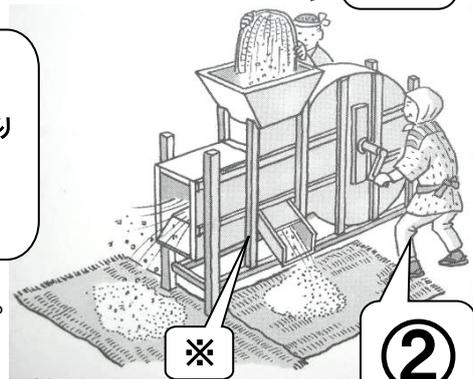
①の人

⇒米や豆を入れ、ストッパーを動かして下に落ちる量を調節します。

②の人

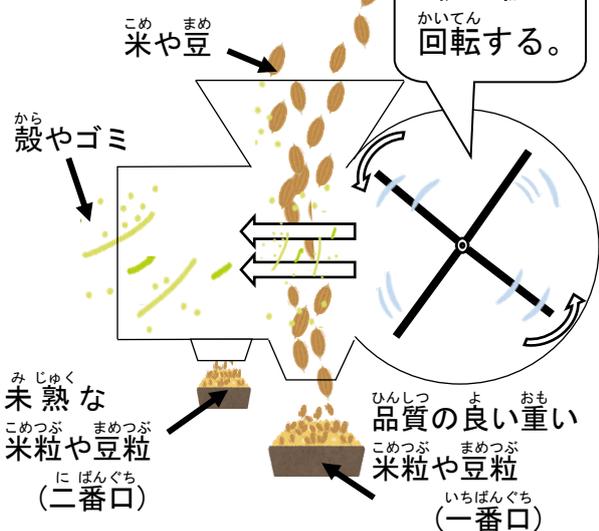
⇒ハンドルを反時計まわりにまわして風を送ります。

一番口(※)から米や豆がでてくるようすを見ながらハンドルをまわすスピードを調整する。



「昔のくらしの道具事典」より

★内側の仕組み



◆唐箕の歴史～中国から日本へ～

中国: 宋応星(中国の学者)が書いた『天工開物』(1637年刊行)に唐箕のイラストと名前が残っています。中国では、風扇車や颯扇などと呼ばれていました。

日本: 佐瀬与次右衛門が書いた『会津農書』(1684年刊行)によって日本で初めて、唐箕が紹介されました。



『和漢三才図会』(1712年刊行)にも唐箕のイラストや説明が描かれています。

※江戸時代の図解入り 百科辞典

『これまでの箕で作業するのは、倍以上に効果がある』と説明しています。

参考 『昔のくらしの道具事典』岩崎書店 2004年 / 『日本の生活道具 百科4 働く道具』河出書房新社 1998年 他

来月(5月)の
けんぱくものしりシートは
現勢・生物-16だよ!
おたのしみに!



岩手県立博物館
〒020-0102 岩手県盛岡市上田字松屋敷34
Tel. 019-661-2831 Fax. 019-665-1214
http://www2.pref.iwate.jp/~hp0910/

※「けんぱくものしりシート」の内容は発行当時のものです。最新情報ではございませんので、あらかじめご了承ください。